

2015 年度入学生 修得単位の目安

1 年生修了時	3 9 単位
2 年生修了時	8 0 単位
3 年生修了時	1 2 1 単位
4 年生修了時	1 4 9 単位
5 年生修了時	1 6 8 単位
卒業単位数	1 9 0 単位

授 業 科 目 に つ い て

1. 学科共通科目群及び専門科目群

学科共通科目群 ・ 及び専門科目群（専門関連科目）は、それぞれ英語の習得、情報教育及びこれからの薬剤師に求められる専門的教養の基礎の育成に当てられる。英語系科目、「情報メディア演習」及び「情報メディア演習」並びに「倫理学」、「心理学」、「法律学」、「宗教学」、「経営学」、「ジェンダー論」からなる専門関連科目がこれらに当たる。

2. 専門科目群

専門科目群の科目は、高齢者医療ならびに在宅医療の場で活躍し得る薬剤師を養成するために必要な科目として配置されており、薬学準備教育、基礎薬学分野、専門薬学分野、及び医療薬学分野の講義科目から構成される。薬学準備教育では、学生の基礎学力の格差を是正し薬学教育へ取り組みへの意識向上を意図する講義・演習科目を選択科目として当てる。基礎薬学分野には、医薬品を化学物質として理解するための科目と人体の構造と機能を理解するための科目を当てる。専門薬学分野には、ヒトと疾病との関連性を理解するための科目を置く。医療薬学分野は、薬物による疾病治療の実際に関係する科目、チーム医療における他職種（医師、看護師、技師、栄養士など）及び介護職種の構成員との連携を可能とするための科目、社会福祉における薬剤師の役割を扱う科目などから構成される。学科の性格上、多くを必修科目とするが、卒業後の進路に対応すべく、必要に応じた選択科目を用意する。

専門科目群の内、卒業後の職能に適うより高度で専門的な知識と技能を培うことを目的として、薬学アドバンス教育として位置付けた本学のカリキュラムの特色でもある11の高次の職能教育を含めた特論演習科目を、5, 6年次に選択必修科目（5, 6年次で6単位以上履修）として用意した。この特論演習は、将来的には時代・社会のニーズに見合った見直しを行い、より実践的な内容になるよう更新される可能性を含む。これらの特論演習を含めた5, 6年次に設定されている科目の開講は5, 6年次通年で複数回開講し、5, 6年次の全学生が病院実務実習及び薬局実務実習の前後に選択履修できるよう時間割編成を行う。これにより、学生は卒業後に希望するキャリアパスに応じた、より実践的で先進的な知識を身に付けることができる。

実習に関しては、従来の薬学教育の中では、各専門講義科目と対応させる形で実習科目を配置することが行われてきた。この授業科目の配置の方法は、一見、合理的に見えるが、実習が全体として統合された理念の下に行われないという問題や、講義科目に対して実習が従属の関係に置かれるといった問題が生じており、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」(薬学会、平成14年8月)でも、講義科目による知識教育の流れとは分離し、技能教育を独立した流れとしてとらえ、これが統合された形で一元的に行われることを提言している。これらの点を踏まえて、薬学部では、実習が本来的な教育効果を上げることができるようにするために、講義科目とは別立てに全実習を一元的に統御する部門(実習コーディネート部門)を置き、教授・准教授・助手からなる専門のチームが実習教育の一元的な推進の総合調整にあたる。尚、病院・薬局事前実習、及び長期病院実務実習、長期薬局実務実習に関しては後述する。

5,6年次の卒業研究および卒業論文では、教員の用意した研究テーマに応じて実験研究あるいは調査研究を実施させ卒業論文を作成させる。教員は、学生がこれまで習得した知識を統合し、相互に連携させて活用することが可能になるよう指導してその達成度を総合的に評価する。この後、総ての学生に薬学教育モデル・コアカリキュラムの習得度を試験することを目的として卒業試験を実施する。

2015年度入学生のカリキュラムについて

1. 卒業に必要な単位数について

学科群		各科目群毎に必要なとされる 単位数
学科共通科目	学科共通科目群 I	6 単位
	学科共通科目群 II	1 単位
専門科目	専門科目群 I	179 単位
	専門科目群 II	4 単位
卒業に必要な総単位数		190 単位

2. 進級基準

(1) 当該学年に配分されている必修科目(専門科目群Iのうちの必修科目)の単位を修得しなければ進級できない。ただし、総合演習 ~ を除く、未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。

なお、未修得必修科目数は、下級学年の未修得必修科目数をも加算したものをいう。実習科目の単位は必ず修得していること。

1年から2年への進級にあたっては、総合演習 を必ず修得していること。

2年から3年への進級にあたっては、総合演習 および専門科目群II(心理学を含み4単位以上、ただし一部除く。)を必ず修得していること。

3年から4年への進級にあたっては、総合演習 および学科共通科目群(6単位)を必ず修得していること。

4年から5年への進級にあたっては、総合演習 を必ず修得していること。

6年次に実務実習の単位取得が見込めない場合、5年から6年への進級を認めない。また、年間の履修登録については原則50単位未満とするが、編転入または転部陣転科生およびJEAP留学生(短期語学研修含む)等、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

(2) 同一学年に2年以上在籍し、正当な理由なく進級可能でない者については、学則に従い適当な処置を講ずるものとする。

3. 進級判定の対象となる科目及び進級に必要な科目数

1年 2年	2年 3年	3年 4年	4年 5年
科目名	科目名	科目名	科目名
医療薬学基礎ゼミ 薬学概論 コミュニケーション論演習 医療倫理 薬学基礎化学 薬学基礎生物 薬学基礎物理 化学 化学 解剖生理学 生物学 生理化学 物理化学 分析科学 公衆衛生学 基礎栄養学 身体活動論演習 基礎薬学実習 総合演習	薬学外国書講読 有機化学 有機化学 生理化学 分析科学 物理薬剤学 細胞生理学 微生物学 微生物学 食品衛生学 環境衛生学 地域連携論演習 薬理学序論 薬理学 生薬学 薬物治療学 医療薬剤学 化学系実習 生物系実習 総合演習 専門科目群 心理学を含み、2科目4単位	看護・介護演習 高齢者医療レビュー論演習 生体防御学 分子生物学 薬理学 薬理学 医薬品化学 病態解析学 病態解析学演習 臨床化学 薬物治療学 薬物治療学 医療薬剤学 医療薬剤学 医薬品情報学 臨床薬物動態学 製剤学 製剤学 薬剤学演習 医療薬学系実習 医療薬学系実習 総合演習 学科共通科目群 英語必修科目、3科目6単位	臨床コミュニケーション学演習 薬師倫理 薬品放射科学 医薬品化学演習 薬物治療学 臨床栄養学 食品機能学 漢方医学 薬事関係法規 医療経済学 医療統計学 病院・薬局事前学習 総合演習
進級となる対象科目数	進級となる対象科目数	進級となる対象科目数	進級となる対象科目数
(19)	(22)	(25)	(13)

* 総合演習 は、2年進級上には必修。

* 専門科目群 (心理学は必修) 4単位が2年次までに単位取得できない場合、2年から3年への進級を認めない。

* 総合演習 は、3年進級上には必修。

* 総合演習 は、4年進級上には必修。

* 学科共通科目群 (英語) 必修6単位が3年次までに単位取得できない場合、3年から4年への進級を認めない。

* 総合演習 は、5年進級上には必修。

* 共用試験を合格した学生のみ、病院実務実習・薬局実務実習を受けることができる。

* 6年次に実務実習の単位取得が見込めない場合、5年から6年への進級を認めない。

3.Global College 科目群について

英語で国際教養を学ぶプログラム科目群で、文化、歴史、文学、政治・経済、外交など、多角的に学び幅広い視点や考え方を学びます。

2014 年度以前入学生の修得単位の目安

1 年生修了時	3 9 単位
2 年生修了時	8 0 単位
3 年生修了時	1 2 1 単位
4 年生修了時	1 4 9 単位
5 年生修了時	1 6 8 単位
卒業単位数	1 9 0 単位

授 業 科 目 に つ い て

1. 学科共通科目群及び専門科目群

学科共通科目群 ・ 及び専門科目群（専門関連科目）は、それぞれ英語の習得、情報教育及びこれからの薬剤師に求められる専門的教養の基礎の育成に当てられる。英語系科目、「情報メディア演習」及び「情報メディア演習」並びに「倫理学」、「心理学」、「法律学」、「宗教学」、「経営学」、「ジェンダー論」からなる専門関連科目がこれらに当たる。

2. 専門科目群

専門科目群 の科目は、高齢者医療ならびに在宅医療の場で活躍し得る薬剤師を養成するために必要な科目として配置されており、薬学準備教育、基礎薬学分野、専門薬学分野、及び医療薬学分野の講義科目から構成される。薬学準備教育では、学生の基礎学力の格差を是正し薬学教育へ取り組みへの意識向上を意図する講義・演習科目を選択科目として当てる。基礎薬学分野には、医薬品を化学物質として理解するための科目と人体の構造と機能を理解するための科目を当てる。専門薬学分野には、ヒトと疾病との関連性を理解するための科目を置く。医療薬学分野は、薬物による疾病治療の実際に関係する科目、チーム医療における他職種（医師、看護師、技師、栄養士など）及び介護職種の構成員との連携を可能とするための科目、社会福祉における薬剤師の役割を扱う科目などから構成される。学科の性格上、多くを必修科目とするが、卒業後の進路に対応すべく、必要に応じた選択科目を用意する。

専門科目群 の内、卒業後の職能に適うより高度で専門的な知識と技能を培うことを目的として、薬学アドバンス教育として位置付けた本学のカリキュラムの特色でもある 1 2 の高次の職能教育を含めた特論演習科目を、5, 6 年次に選択必修科目（5, 6 年次で 4 単位以上履修）として用意した。この特論演習は、将来的には時代・社会のニーズに見合った見直しを行い、より実践的な内容になるよう更新される可能性を含む。これらの特論演習を含めた 5, 6 年次に設定されている科目の開講は 5, 6 年次通年で複数回開講し、5, 6 年次の全学生が病院実務実習及び薬局実務実習の前後に選択履修できるよう時間割編成を行う。これにより、学生は卒業後に希望するキャリアパスに応じた、より実践的で先進的な知識を身に付けることができる。

実習に関しては、従来の薬学教育の中では、各専門講義科目と対応させる形で実習科目を配置することが行われてきた。この授業科目の配置の方法は、一見、合理的に見えるが、実習が全体として統合された理念の下に行われないという問題や、講義科目に対して実習が従属の関係に置かれるといった問題が生じており、「薬学教育モデル・コアカリキュラム」(薬学会、平成14年8月)でも、講義科目による知識教育の流れとは分離し、技能教育を独立した流れとしてとらえ、これが統合された形で一元的に行われることを提言している。これらの点を踏まえて、薬学部では、実習が本来的な教育効果を上げることができるようにするために、講義科目とは別立てに全実習を一元的に統御する部門(実習コーディネート部門)を置き、教授・准教授・助手からなる専門のチームが実習教育の一元的な推進の総合調整にあたる。尚、病院・薬局事前実習、及び長期病院実務実習、長期薬局実務実習に関しては後述する。

5,6年次の卒業研究および卒業論文では、教員の用意した研究テーマに応じて実験研究あるいは調査研究を実施させ卒業論文を作成させる。教員は、学生がこれまで習得した知識を統合し、相互に連携させて活用することが可能になるよう指導してその達成度を総合的に評価する。この後、総ての学生に薬学教育モデル・コアカリキュラムの習得度を試験することを目的として卒業試験を実施する。

2014年度以前入学生のカリキュラムについて

1. 卒業に必要な単位数について

学科群		各科目群毎に必要なとされる単位数
学科共通科目	学科共通科目群 I	6 単位
	学科共通科目群 II	1 単位
専門科目	専門科目群 I	179 単位
	専門科目群 II	4 単位
卒業に必要な総単位数		190 単位

2. 進級基準

(1) 当該学年に配分されている必修科目(専門科目群Iのうちの必修科目)の単位を修得しなければ進級できない。

ただし、未修得必修科目数が3科目以下の者の進級を認めることがある。

なお、未修得必修科目数は、下級学年の未修得必修科目数をも加算したものをいう。

実習科目の単位は必ず修得していること。また、2年から3年への進級にあたっては、総合演習 および専門科目群II(選択必修4単位以上、ただし一部除く。)を必ず修得していること、3年から4年への進級にあたっては学科共通科目群(必修6単位)を必ず修得していること、4年から5年への進級にあたっては、総合演習 および を必ず修得していること。

6年次に実務実習の単位取得が見込めない場合、5年から6年への進級を認めない。また、年間の履修登録については、原則50単位未満とするが、編入学または転籍生およびJEAP留学生(短期語学研修含む)については、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

(2) 同一学年に2年以上在籍し、正当な理由なく進級可能でない者については、学則に従い適当な処理を講ずるものとする。

3. 進級判定の対象となる科目及び進級に必要な科目数

1年 2年	2年 3年	3年 4年	4年 5年
科目名	科目名	科目名	科目名
医療薬学基礎ゼミ 薬学概論 言語コミュニケーション論演習 薬学基礎化学 薬学基礎生物 薬学基礎物理 解剖生理学 解剖生理学 化学 化学 生物学 分析科学 生理化学 物理化学 細胞生理学 基礎栄養学 基礎薬学実習	薬学外国書講読 有機化学 創薬化学 分析科学 生理化学 物理薬剤学 微生物学 微生物学 生薬学 食品衛生学 公衆衛生学 環境衛生学 薬理学 薬理学 医療薬剤学 化学系実習 生物系実習 総合演習 福祉論 専門科目群 (選択必修) 4単位	分析科学 生理化学 生体防御学 毒性学 薬理学 医薬品化学 病態解析学 薬物治療学 薬物治療学 医療薬剤学 医療薬剤学 医薬品情報学 分子生物学 物理製剤学 物理製剤学 病態解析学演習 医療薬剤学演習 高齢者医療 サービス論演習 医療薬学系実習 医療薬学系実習	医療倫理 臨床化学 薬物治療学 臨床薬理学 臨床栄養学 漢方医学 薬事関係法規 臨床コミュニケーション学演習 医療経済学 病態解析学演習 病院・薬局事前実習 総合演習 総合演習 福祉制度論
進級となる対象科目数	進級となる対象科目数	進級となる対象科目数	進級となる対象科目数
(17)	(19)	(20)	(14)

* 総合演習 は3年進級上には必修

* 総合演習 、 は5年進級上には必修

* 学科共通科目群 (英語)必修6単位が3年次までに単位取得できない場合、3年から4年への進級を認めない。

* 共用試験を合格した学生のみ、病院実務実習、薬局実務実習を受けることができる。

* 6年次に実務実習の単位取得が見込めない場合、5年から6年への進級を認めない。

3.Global College 科目群について

英語で国際教養を学ぶプログラム科目群で、文化、歴史、文学、政治・経済、外交など、多角的に学び幅広い視点や考え方を学びます。